

牛のためにこだわり抜いた環境づくり



日向市農業委員会の会長であり、市内で畜産業を営んでいる股野満男さんをご紹介します。

高校を卒業して15年間サラリーマン、35年間自営業(ブローラー)をして、令和3年4月から初めて千切り大根と繁殖和牛の多角経営を始めました。自分の代から独学での挑戦だったため、失敗の連続でしたが、現在やっと軌道に乗り始めたところだと思います。

900坪の敷地の中に、1つ1つのスペースにゆとりを持った簡易牛舎を建て、全面に牧草を育てており、現在母牛が8頭と繁殖させた仔牛を3頭飼育し、なるべく広い土地で放牧のような方式で育てています。仔牛は8ヶ月～10ヶ月間飼育して肥育業者へ出荷しています。

命を頂いているということから、なんとしてでも牛を大事にしたいと考えていたところ、牛を快適な環境で飼育することにより、ストレスや疾病を減らせることがわかりました。このようなアニマルウェルウェアの理念が、生産性の向上や安全な畜産物の生産にも繋がることを知り、できるだけ快適な環境を用意しストレスをかけず育てることを目指す現在行っている育成方式になりました。



始めたばかりのころは、特に餌の調整とお産について不安だったのですが、同業者の方々に助けてもらい、改めて助け合いの心が大切だと思っています。このことは、農業に限らず人生の中で最も大切なことだと自分は思っています。また、自然相手の取組となりますので、天変地異の影響についても機敏になりました。70歳を超えていますが、未だに日々学ぶことばかりです。

後継者にしっかりとしたものを残したいため、放牧に使える敷地の面積と母牛を増やすことで、収益の増加を目指して多角経営を確立したいと思っています。

また、息子とこれからも色々な勉強を一緒にしていき、日々精進していきたいと思っています。

最高においしいライチを届けたい



市内でみかん・マンゴー・ライチ生産を営まれている大黒園代表の黒木義克さんをご紹介します。

高鍋農業高校卒業後、静岡県興津果樹試験場(現カンキツ研究興津拠点)に進学し、20歳の時に日向市の実家へ戻り、祖父の代から続くみかん農家を継承しました。その後、22歳の時に日向市初のマンゴー生産を行いました。ライチは42歳の時から試験的に苗を導入し、今年で8年目になります。

農業を始めたきっかけは、家業であり、長男でもあるという思いからです。もし、農業以外の仕事をするなら、物をつくるのが好きなので、機械工作等に就いていたと思います。

20年ほど前には40円/ℓだった燃料代が現在2倍以上に上がるなど、資材費等の高騰による経費負担の増加への対応に苦慮しております。

新鮮な生ライチは殻が深い紅色で果肉は瑞々しく透明感があります。味わいは、果汁がたっぷりで甘すぎず、ほど良い酸味と生ライチ特有の食感が楽しめます。また、栄養面でも優れており、特に葉酸が多く含まれているため、貧血予防の効果が期待できます。葉酸は、厚生労働省からも、特に妊婦へ妊娠初期からの摂取が推奨されている栄養でもあります。また、風邪や高血圧予防、美肌効果が期待されるビタミンCやカリウムも含まれております。



ライチの生産量を伸ばしつつ、観光農園といった生産以外の取組にも挑戦できたらと思っています。また、生涯現役でいたいところですが、体が動くうちに、事業承継についても考えていかなければならないと感じています。